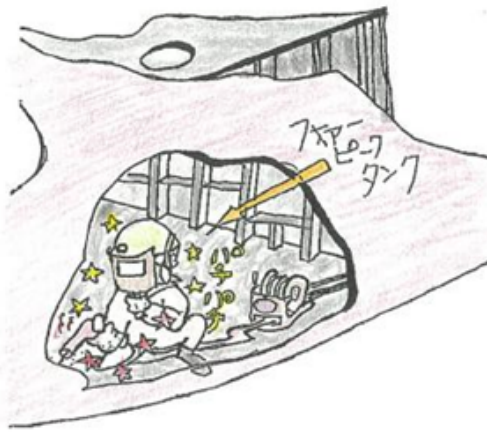


⑨ 高温物との
接触

狭隘なタンク内で溶接作業中、 作業服が燃え上がり焼死

発生状況



狭隘なタンク内で溶接作業中、
火の粉が作業服に引火し、燃
え出した。自力で脱出したが火
傷がひどく、死に至った

原因

- ✓ 消火器や消火水がなかった
- ✓ 難燃性の保護具を装着していなかった
- ✓ 火気作業の危険性が認識されていなかった



防止対策

- ✓ 火気作業では消火器または消火水(ペットボトル等)を携帯させる
- ✓ 火気作業時の適正な保護具(前掛け、腕カバー、革ジャン、難燃性作業服等)の着用を徹底させる
- ✓ 狭隘部や危険箇所は事前に十分周知し、火気作業者への声かけを励行する



POINT!

火気作業では適切な保護具を装着すること！
いつも消火水等を携行しよう！



DATA

発生年月日
2009.07.22

発生場所	作業名・作業内容	死傷消名	職種	溶接職
建造船FPT内	溶接作業	火傷	社/協	社員
			年齢	65才
			経験年数	6年

- 火傷を負った時の対応

熱傷局所は直ちに水で冷却。場合によっては水にひたした清潔なタオルで代用する。

衣服は無理に脱がすと水疱が破れて治りにくなるので、衣服を切って脱がせる。熱傷の応急処置では、できるだけ水疱を温存する。水疱は最良の被覆材です。